

OKURA

2022年12月期 第2四半期決算説明資料



大倉工業株式会社

2022年8月25日

CONTENTS



01. 当社の概要
02. 第2四半期決算の概要
03. 通期業績予想
04. サステナビリティの推進
05. 参考資料

経営理念

経営ビジョン
Next10(2030)
次の10年に向けた「ありたい姿」

サステナビリティ

持続的な成長、中長期的な企業価値向上
サステナビリティ基本方針、基本原則
環境方針 品質方針 コーポレートガバナンス基本方針

事業

社会と共生する事業活動
中期経営計画 年度事業計画

ESG

事業を通じて実現
ESG経営

社訓

大倉工業倫理綱領

当社の概要

1



<p>証券コード 社名 本社所在地 代表者 設立 資本金 従業員数 売上高 事業所 子会社</p>	<p>4221(東証プライム) 業種 化学 大倉工業株式会社 Okura Industrial Co.,Ltd. 香川県丸亀市中津町1515番地 代表取締役社長執行役員 神田 進 1947年7月11日 86億1千9百万円 1,976名(連結)、1,058名(単体) 884億円(2021年12月期、連結) 営業拠点 6拠点、製造拠点 5拠点 連結子会社〔国内:11社、海外:1社〕 (株)KSオークラ、 (株)オークラプロダクツ、 オークラ情報システム(株)、 (株)オークラパック香川、 非連結子会社 1社 大倉産業(株)</p>	<p>(株)九州オークラ、 オークラホテル(株)、 (株)オークラハウス、 (株)カントウ、 (株)埼玉オークラ、 (株)オークラプレカットシステム、 (株)ユニオン・グラビア、 無錫大倉包装材料有限公司、</p>
---	--	---

【2022年6月末現在】

第2四半期決算の概要

2

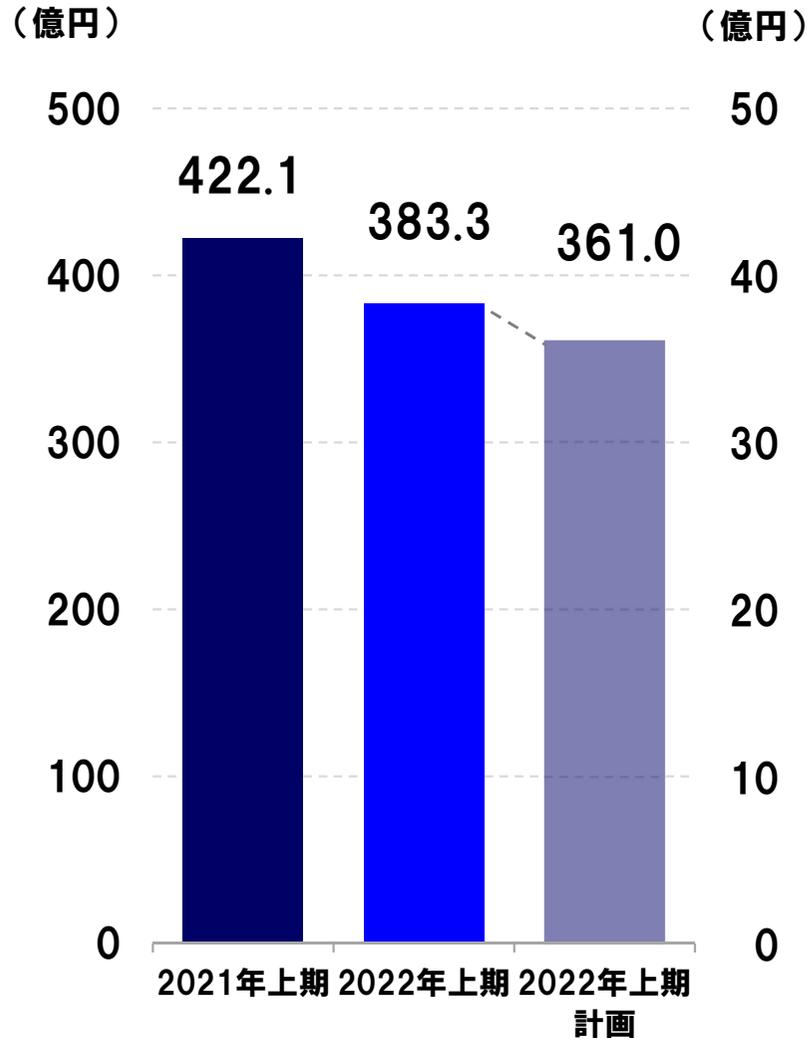
合成樹脂事業	需要増 ↑ <ul style="list-style-type: none">・農業用フィルムは好調・環境貢献製品は堅調	需要減 ↓ <ul style="list-style-type: none">・食品向け、一般包装用は需要減・自動車関連及び工業用途は半導体不足が影響
新規材料事業	需要増 ↑ <ul style="list-style-type: none">・OA機器用途は堅調	需要減 ↓ <ul style="list-style-type: none">・モバイル向け光学フィルム、大型液晶パネル向け光学フィルムは在庫調整局面
建材事業	需要増 ↑ <ul style="list-style-type: none">・パーティクルボードは堅調・水廻り・内装分野が堅調・輸入材、他社代替により堅調	
その他関連事業	需要増 ↑ <ul style="list-style-type: none">・情報処理事業の薬VAN、鑑査レンジは堅調	苦戦 <ul style="list-style-type: none">・ホテル事業は昨年より回復するも未だコロナ影響により苦戦



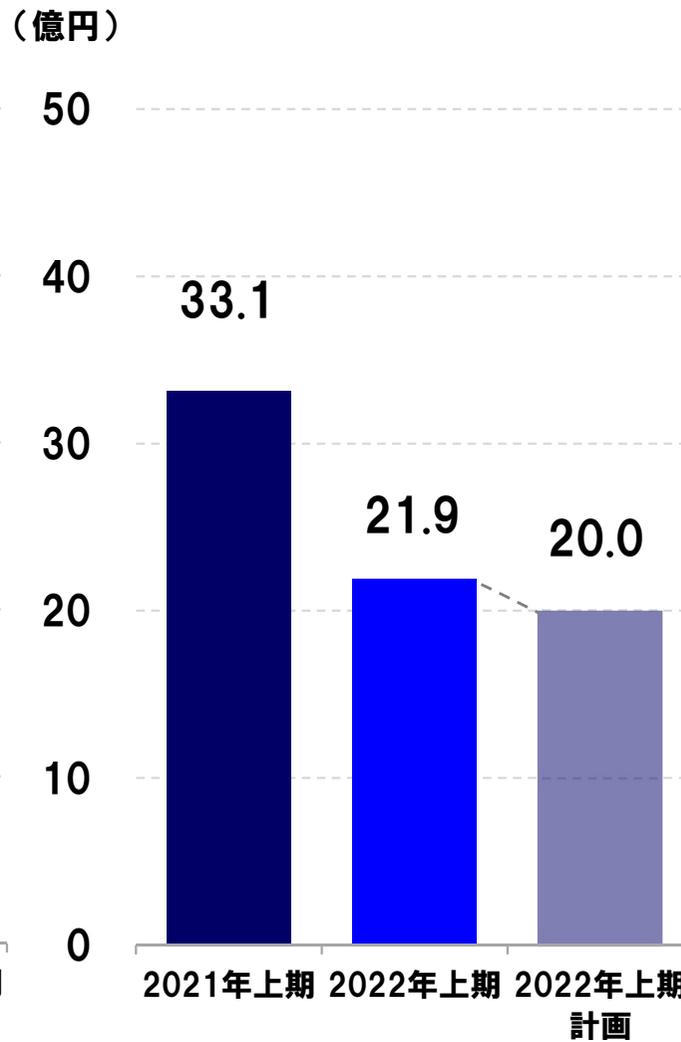
02-1 連結売上高 連結営業利益



【売上高】



【営業利益】



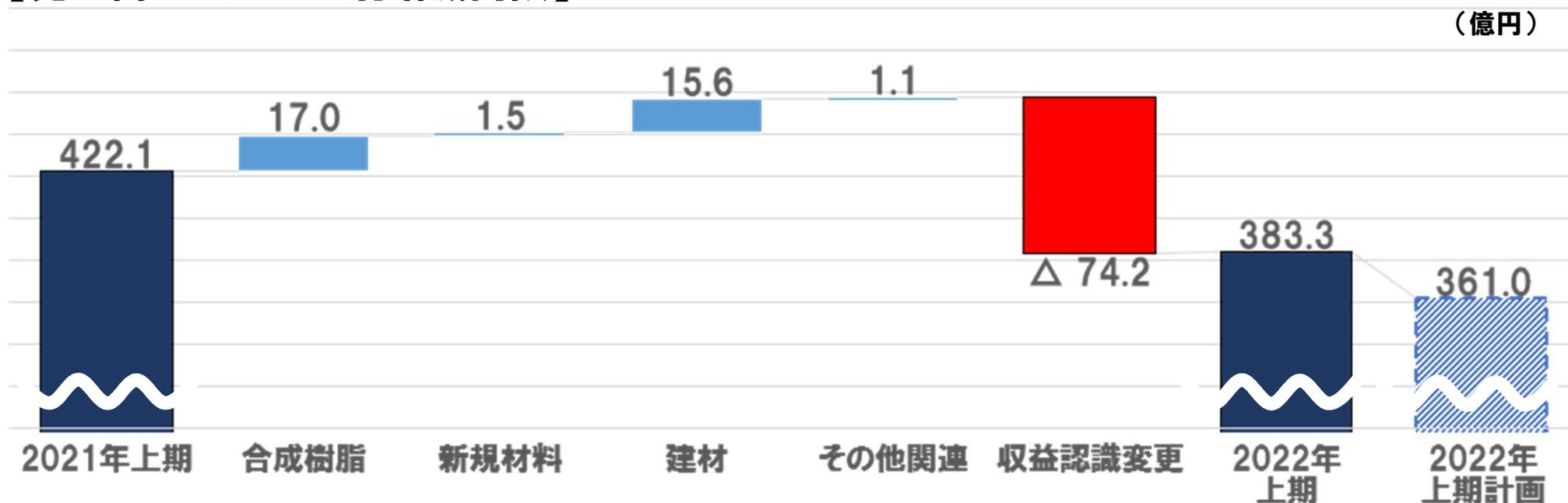
- 収益認識会計基準等の適用による売上高減少は74.2億円。
- 収益認識会計基準適用前の売上高では前年上期比で増加。
- 原材料価格の度重なる上昇により、営業利益は前年上期比では減少するも計画は上回る。
- 合成樹脂事業では農業用フィルムの販売数量が増加。
- 新規材料事業では光学製品の受注が在庫調整により低調。

※2022年上期計画は、2022年2月10日に公表しました連結業績予想数値です。

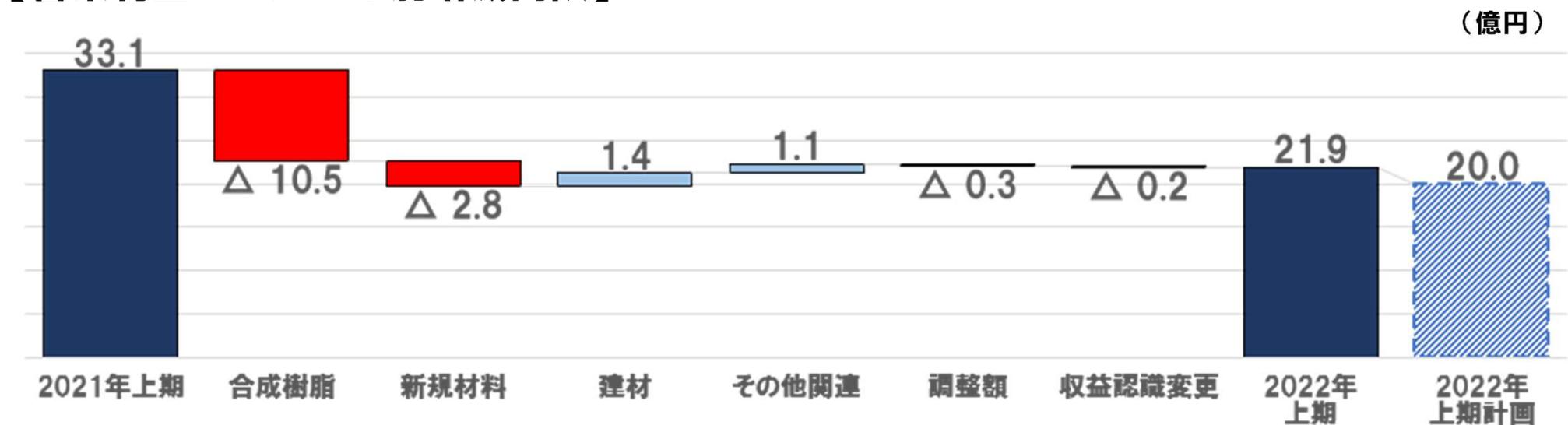
02-1 セグメント別売上高、営業利益増減



【売上高のセグメント別増減内訳】

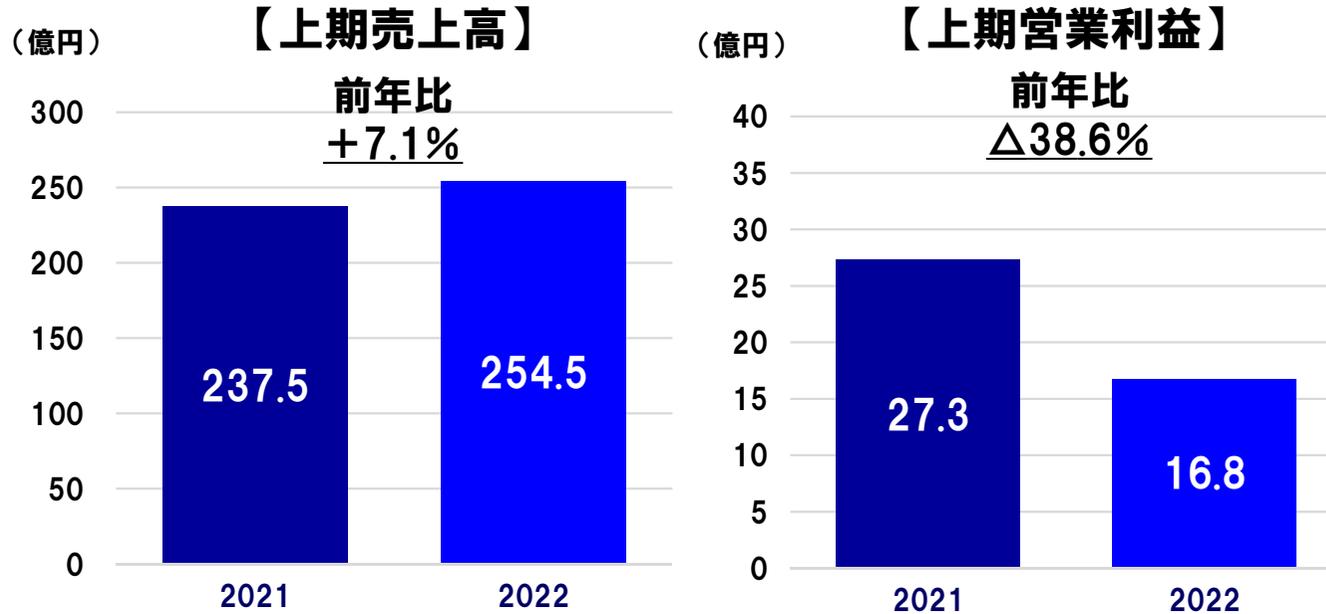


【営業利益のセグメント別増減内訳】





02-2 合成樹脂事業



※ 2021年売上高は収益認識に関する会計基準を適用した場合の数値です。

BU別売上高	2022年上期 (百万円)	前年比
ライフ & パッケージング BU	8,980	+1.0%
シュリンクフィルム	4,717	+2.4%
軟包材	3,409	Δ 0.6%
リキッドパック	853	Δ 0.5%
プロセスマテリアル BU	3,351	+8.0%
ベーシックマテリアル BU	9,289	+7.5%
アグリマテリアル BU	3,268	+20.4%
その他	563	+36.6%
合計	25,453	+7.1%

- 農業用フィルムの他社切替及び直需活動により販売が増加。
- 半導体製造用のパッケージ(導電性フィルム)及びダイシング用が増加。
- 環境対応製品の拡販に向け活動。
- パッケージは巣ごもり及び衛生用が反動により減少。
- 原材料価格上昇に対し、製品価格修正が遅れ利益率が低下。

エコカルマルチ®



エコローム® FC

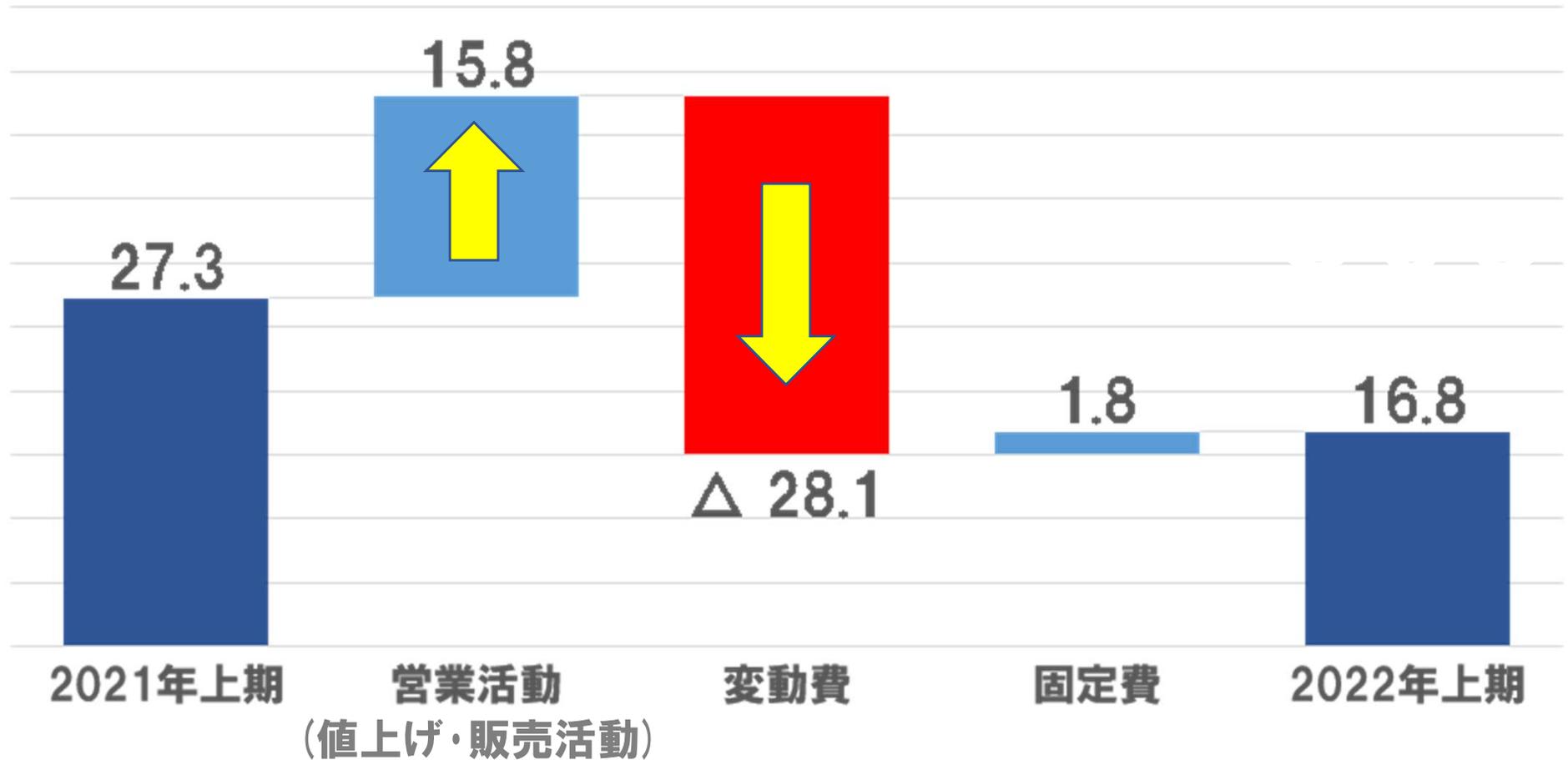


夢がある。技術がある。未来ができる。

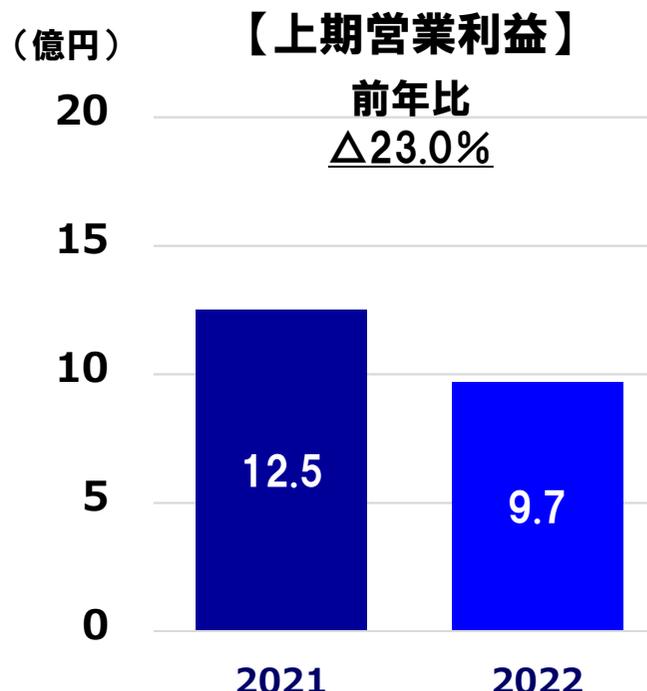
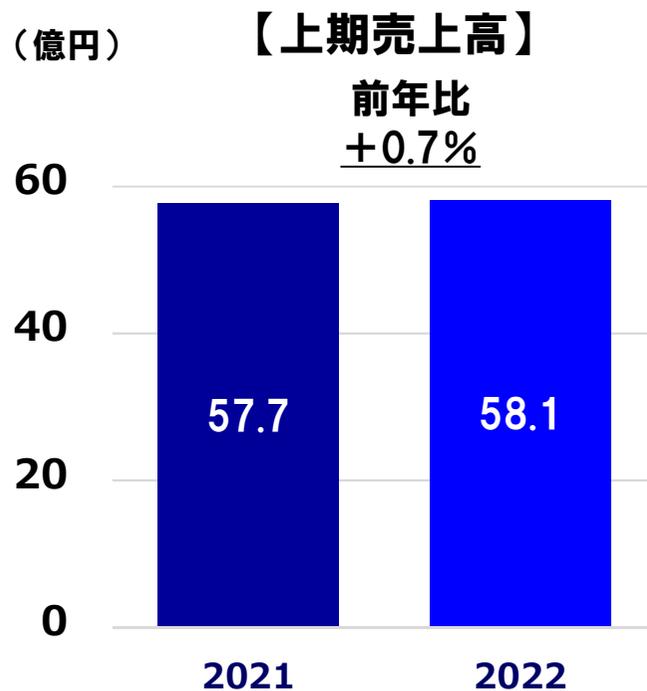


【営業利益増減内訳】

(億円)



・原材料価格及び電力料や物流費用のコスト上昇に対し、製品価格への転嫁が追いついていない。



※ 2021年売上高は収益認識に関する会計基準を適用した場合の数値です。

BU別売上高	2022年上期 (百万円)	前年比
機能材料BU	1,558	+18.5%
電子材料BU	1,088	+1.9%
光学材料BU	3,142	$\Delta 6.4\%$
商品他	22	$\Delta 27.7\%$
合計	5,812	+0.7%

➤ **機能材料**
OA機器用部材、欧州・中国向け受注好調。自動車用途、モーター関連の接着剤が増加。

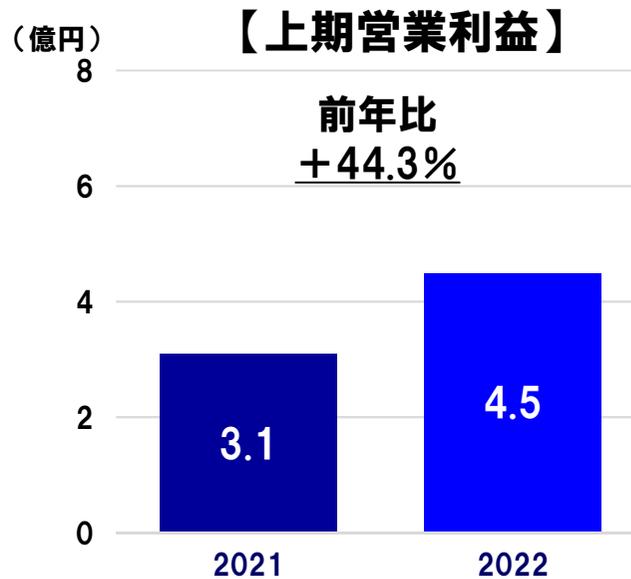
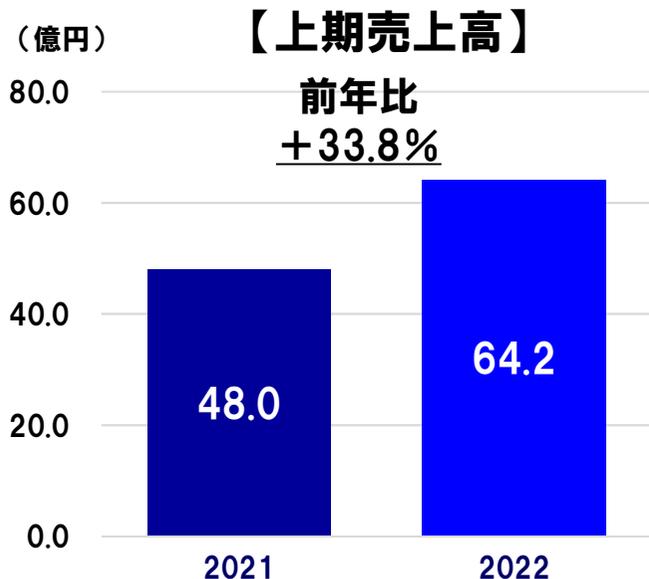
➤ **光学フィルム**
ディスプレイ市場は、巣ごもり需要の終焉、インフレ加速による市況変化で低調。



無溶剤型アクリル接着剤



光学フィルム



※ 2021年売上高は収益認識に関する会計基準を適用した場合の数値です。

※ 2021年売上高及び営業利益は(株)オークラハウス、(株)オークラプレカットシステムをその他関連事業から建材事業セグメントに変更した数値です。

▶ **パーティクルボード製品**
水廻り・内装分野は順調に推移。

住宅設備機器



▶ **環境資材製品・住宅部材製品**
環境配慮型製品「木守」を中心に増加。

木守



▶ **ハウス事業・プレカット事業**
市場全体ではウッドショックの影響を受けるも資材確保でき売上は増加。

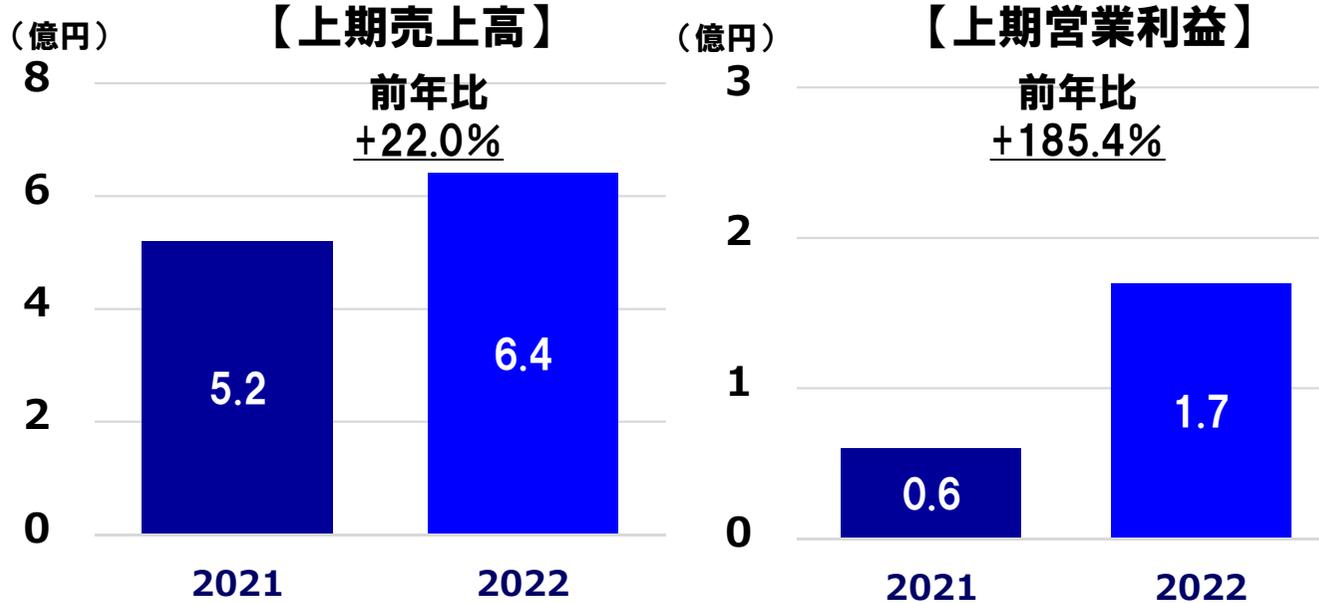


オークラプレカットシステム
非住宅物件(保育園)

製品別売上高	2022年上期 (百万円)	前年比
パーティクルボード製品	3,529	+19.2%
環境資材製品	445	+63.6%
住宅部材製品	157	+90.0%
ハウス事業	553	+27.2%
プレカット事業	1,852	+61.5%
消去・組替	△111	—
合計	6,424	+33.8%



02-2 その他関連事業



※ 2021年売上高は収益認識に関する会計基準を適用した場合の数値です。
 ※ 2021年売上高及び営業利益は(株)オークラハウス、(株)オークラプレカットシステムをその他関連事業から建材事業セグメントに変更した数値です。

➤ **ホテル事業**
 宿泊は、回復基調。
 コロナ影響により、宴会の低迷が続く。



➤ **情報処理事業**
 調剤薬局向け調剤鑑査システムの販売が堅調。



事業別売上高	2022年上期 (百万円)	前年比
ホテル事業	211	+101.9%
情報処理事業	703	+10.1%
賃貸事業	338	+3.0%
消去・組替	△607	-
合計	644	+22.0%

夢がある。技術がある。未来ができる。

02-3 連結損益計算書



(億円)

	2021年	2022年	増減額	増減率	主な内訳
売上高	422.1	383.3	△ 38.8	△ 9.2	
営業利益	33.1	21.9	△ 11.2	△ 33.9	
営業外収益	3.2	3.9	+0.6		
営業外費用	0.7	0.4	△ 0.2		
経常利益	35.6	25.4	△ 10.2	△ 28.7	
特別利益	2.0	0.0	△ 2.0		(前期) 固定資産売却益1.8
特別損失	0.6	0.2	△ 0.4		
税金等調整前 四半期純利益	37	25.2	△ 11.8	△ 31.9	
法人税等	10.7	6.8	△ 3.8		
親会社株主に帰属する 四半期純利益	26.2	18.3	△ 7.9	△ 30.3	

02-3 連結貸借対照表



(億円)

	2021年期末	2022年 第2四半期末	増減額	主な内訳
(資産の部)				
流動資産	469.5	476.6	+7.0	現預金 $\Delta 19.1$
固定資産	389.1	383.4	$\Delta 5.6$	たな卸資産 +13.0 有形固定資産 $\Delta 4.1$
資産合計	858.6	860.1		
(負債の部)				
流動負債	279.7	273.8	$\Delta 5.8$	借入金 $\Delta 6.3$
固定負債	53.7	51.4	$\Delta 2.2$	仕入債務 +15.1
負債合計	333.4	325.3		
(純資産の部)				
純資産合計	525.2	534.7	+9.5	利益剰余金 +9.9 有価証券評価差額金 $\Delta 1.0$
(自己資本比率)	(61.1%)	(62.1%)		
借入金残高	33.1	26.8	$\Delta 6.3$	

(億円)

	2021年	2021年 上期	2022年 上期
現金及び現金同等物期首残高	91.7	91.7	97.6
営業活動によるキャッシュ・フロー	63.4	39.8	20.4
投資活動によるキャッシュ・フロー	△27.6	△10.5	△26.6
財務活動によるキャッシュ・フロー	△30.4	△20.4	△14.6
現金及び現金同等物期末残高	97.6	100.9	78.4

営業キャッシュ・フロー

税金等調整前当期純利益

+25.2億円

減価償却費

+20.6億円

棚卸資産の増加

△13.0億円

投資キャッシュ・フロー

製造装置等の有形固定資産の
取得による資金の減少

財務キャッシュ・フロー

配当金の支払 △8.3億円
借入金の減少 △6.3億円

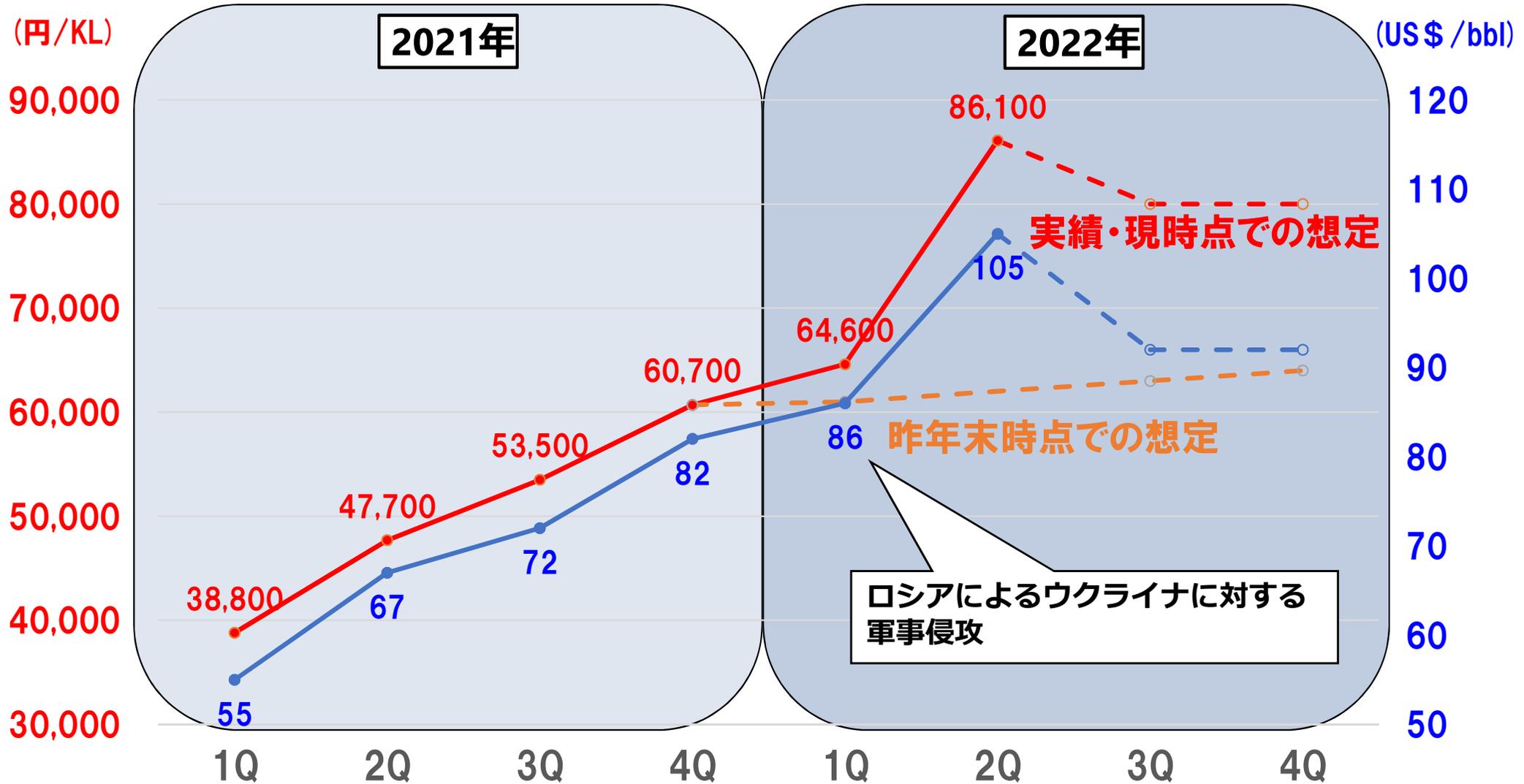
2022年12月期 業績予想

3

03-1 国産ナフサ価格及び原油価格の足下での動向



左軸(赤線):ナフサ価格 右軸(青線):ドバイ原油価格(US\$/bbl)



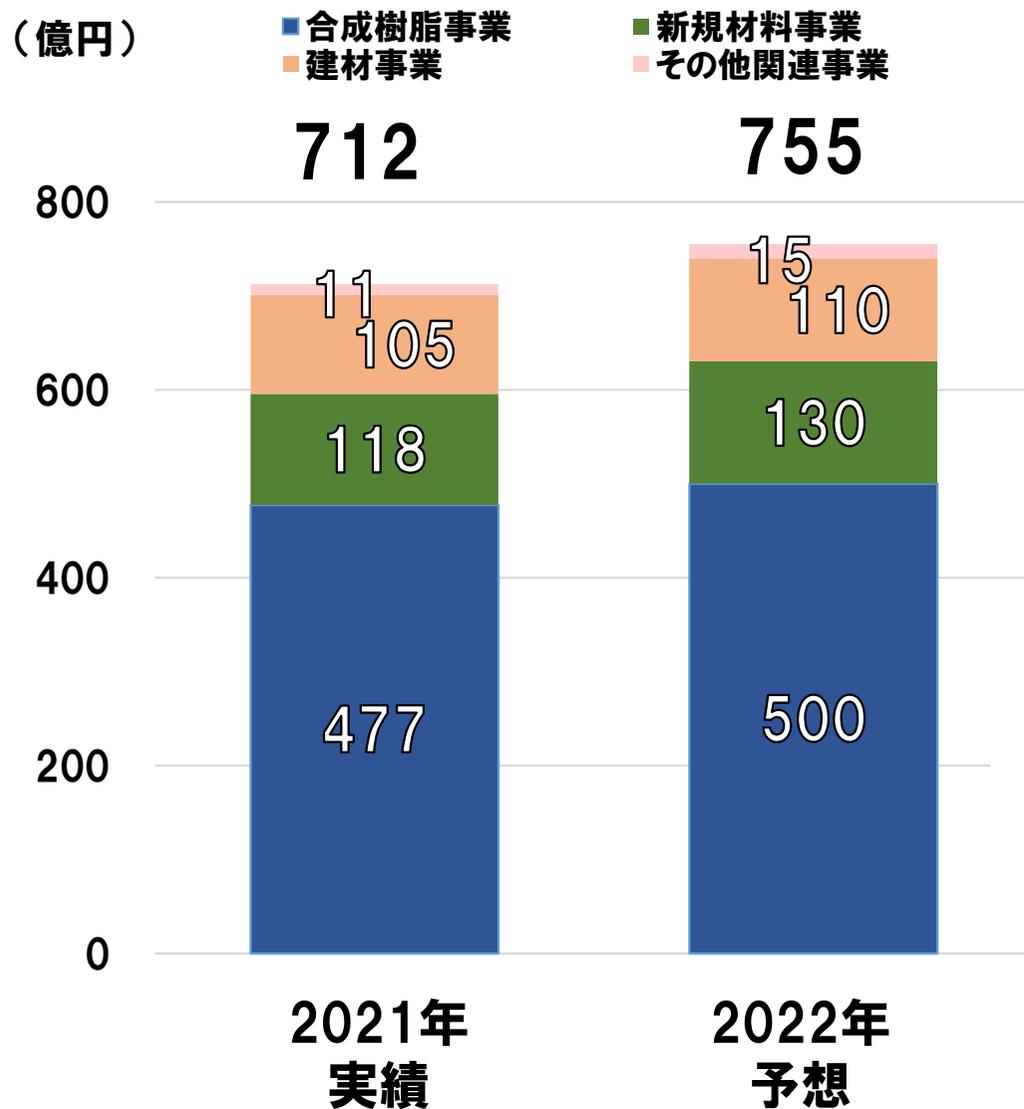
2021年 1Q:38,800円/KL(確報値) 2Q:47,700円/KL(確報値)
 3Q:53,500円/KL(確報値) 4Q:60,700円/KL(確報値)
 2022年 1Q:64,600円/KL(確報値) 2Q:86,100円/KL(速報値)

※折れ線グラフ中の点線の値は当社予想値です。

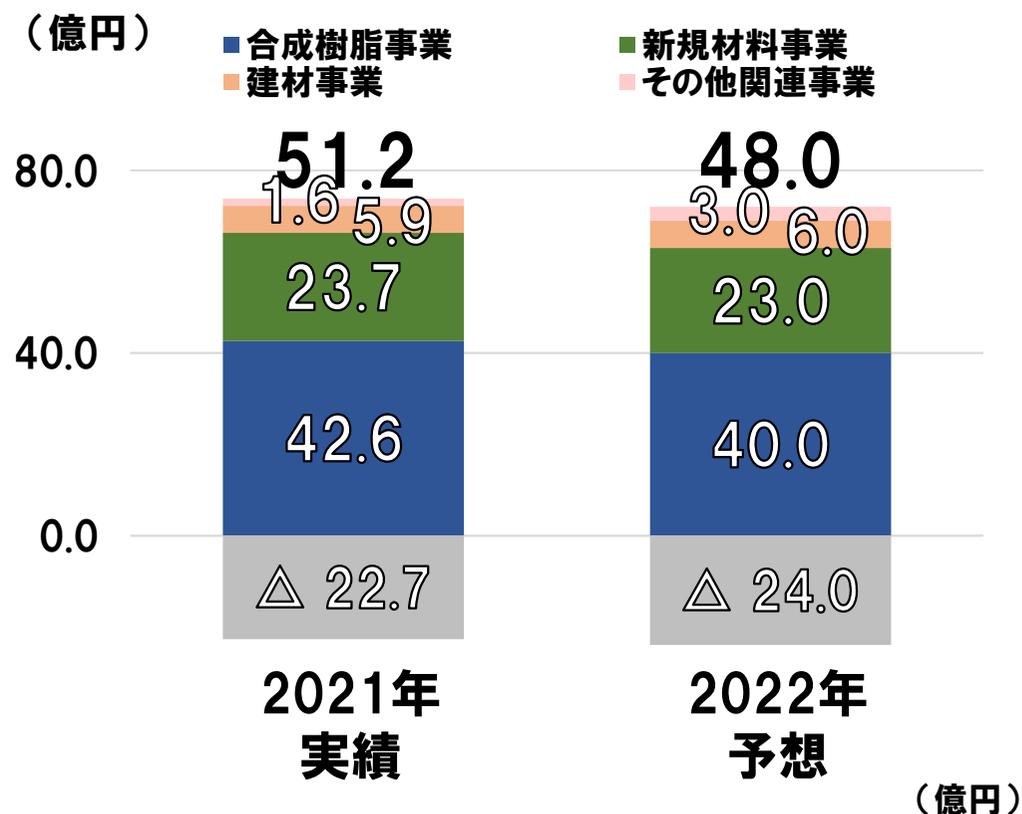
03-1 業績予想 セグメント別売上高、営業利益



【売上高】



【営業利益】

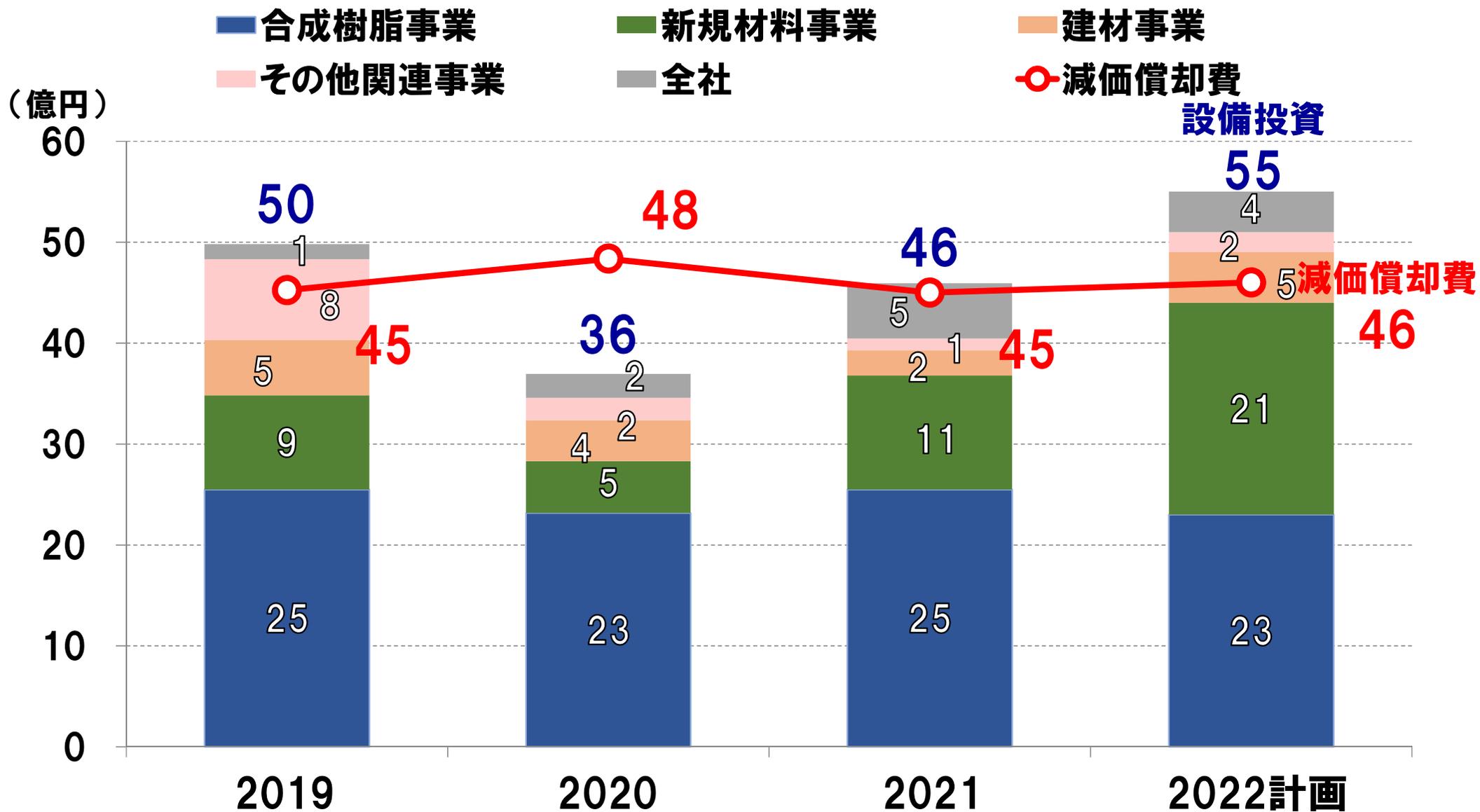


	2021年実績	2022年予想	前年比
経常利益	55.3	51.0	△7.8%
親会社株主に帰属する当期純利益	34.1	35.0	+2.4%

※2021年実績は「収益認識に関する会計基準」を適用し、住宅事業、木材加工事業の業績を「その他関連事業」から「建材事業」に変更した場合の数値です。

夢がある。技術がある。未来ができる。

03-1 設備投資(工事ベース)及び減価償却費



※2021年まで「その他関連事業」に集約していた住宅事業、木材加工事業の投資金額を2022年計画より「建材事業」に含めております。

原燃料高騰に対する製品価格改定に注力

- ・当初想定以上に原燃料高騰影響が拡大し、製品価格改定に注力
- ・2022年第3四半期中には原燃料高騰分を製品価格に反映するよう活動中

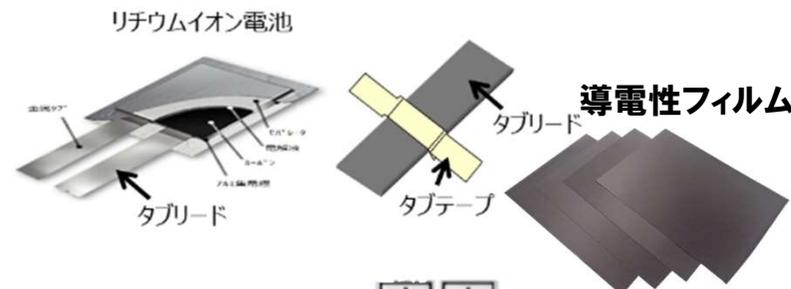
環境貢献製品(Caerula)の拡販

- 農業用生分解性マルチフィルム「エコローム®こかげ」
- リサイクルマルチフィルム「エコカルマルチ®」
- バイオマスシュリンクフィルム「ラプラー®バイオ」
- バイオマスポリエチレンフィルム「OKバイオ®, ビオナチュレ®」



プロセス機能材料の拡販・開発

- ・半導体のパッケージ用や工程用(導電性フィルム)の拡販
- ・LIB電池用タブテープの拡販

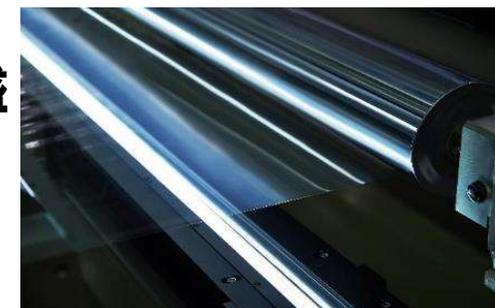


夢がある。技術がある。未来ができる。

大型液晶パネル向け光学フィルム 生産能力増強

ディスプレイ市場は、現在、大きな在庫調整局面に。半導体不足は解消の兆し。今後、中国偏光板メーカーの生産能力増強計画に伴い広幅品の需要増が想定される。

- ・大型液晶パネル向け光学フィルム 広幅品市場の取り込みに注力
 - ◇丸亀工場 MC1ライン改造
 - 2022年4月より本格量産開始。2,500mm幅は顧客需要が旺盛
 - ◇仲南工場 G1ライン 新規ユーザー認定取得
 - ◇仲南工場 新工場 工事着工(H棟新設工事 総投資額 約60億円)
 - 生産能力 現行の約2倍、 2023年12月量産開始予定



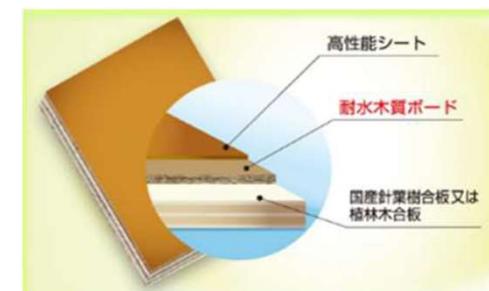
自動車関連案件の獲得・拡販

- ・車載向け機能性フィルムの新案件獲得
 - ◇ CID用飛散防止フィルムの試作⇒量産へ
 - ◇ PPF用途は堅調に推移、新規顧客獲得に向け活動
- ・溶接代替用接着剤の拡販



環境型枠「木守」の拡販

- ・既存先の深耕とゼネコンへの提案、採用促進
 - ・新設備を導入により7月から生産能力拡大、生産性向上
- ⇒ 販売枚数は計画の20,000枚／月を上回り順調に推移



住宅部材事業領域の拡大

- ・省施工パネルの拡販
 - ◇ベースとなる地元ビルダーの採用に向けて注力
 - ◇新設備を導入し8月より稼働、品質及び生産性改善
- ・構造用パーティクルボードの拡販
 - ◇素材不足による代替需要、メーカー採用に注力
 - ◇屋根用部材OSB合板の代替として材料指定を目指す



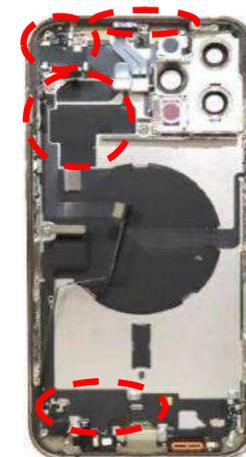
高周波低損失基板用フィルム開発

- ◇特殊製膜設備導入を完了
- ◇FCCLメーカーを中心に、特殊製膜設備で製膜した広幅サンプルの提供を開始
- ◇2023年中の顧客認定を目指し活動中

高周波低損失基板用フィルム



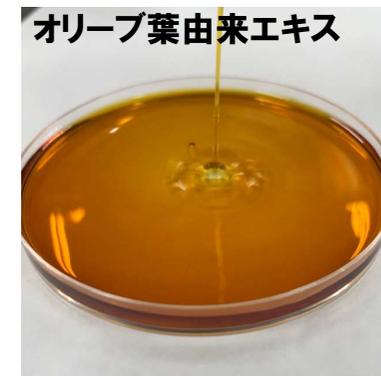
5Gスマホ
アンテナモジュール



植物加工技術を活用した ヘルスケア、スキンケア用原料の開発

- ・オリーブ葉から有機溶媒を使用せずに高濃度で機能性成分を抽出
(抗酸化作用等)
- ◇植物の新たな機能性及び関与成分の探索(産官学との共同研究)

オリーブ葉由来エキス



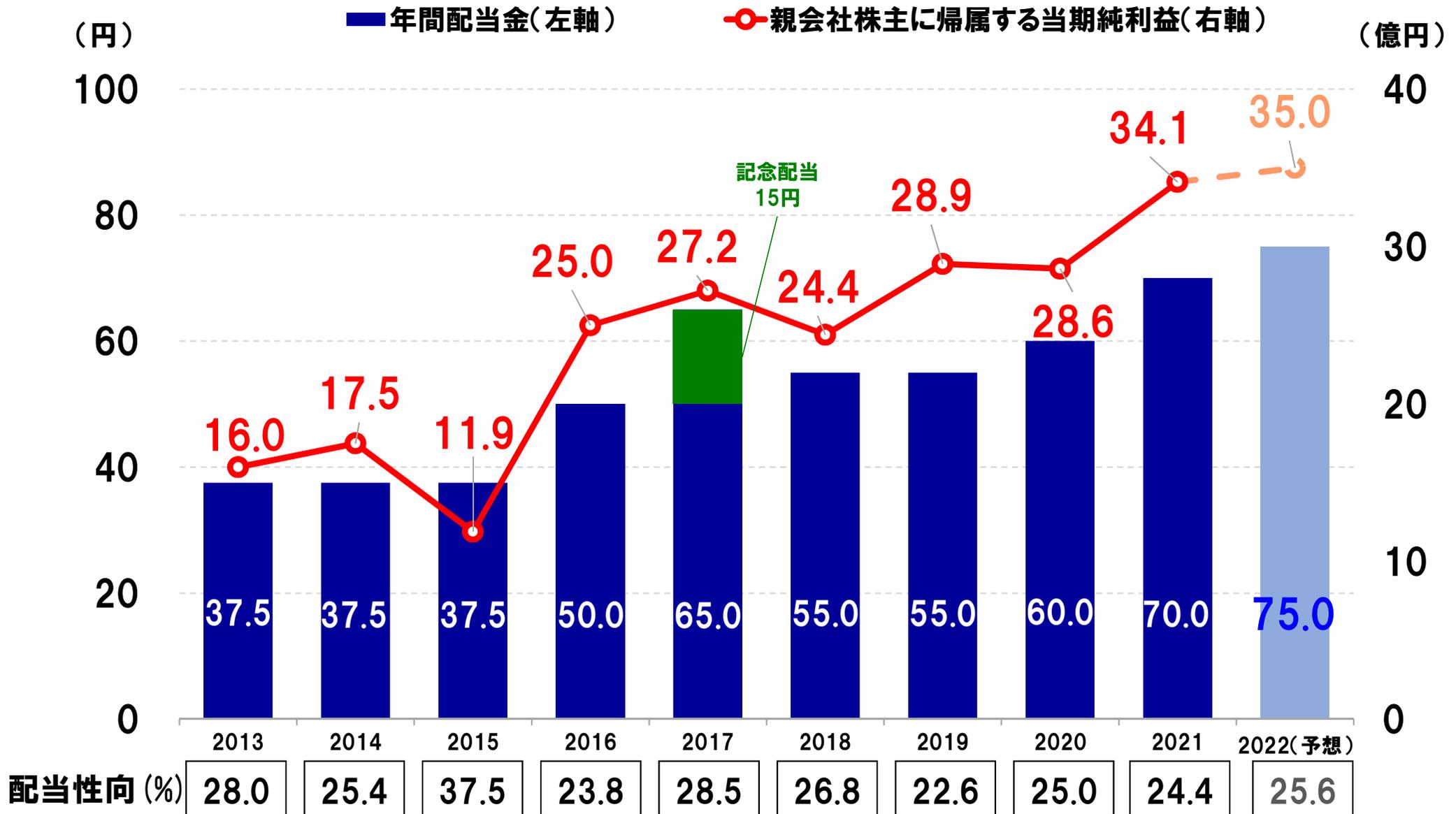
環境貢献製品の開発

- ・市場から回収したオレフィン系フィルムのリサイクル技術開発
- ・ケミカルリサイクル技術の導入検討





03-3 株主還元



2022年期末配当金は、一株当たり75円に増配。

サステナビリティの推進

4

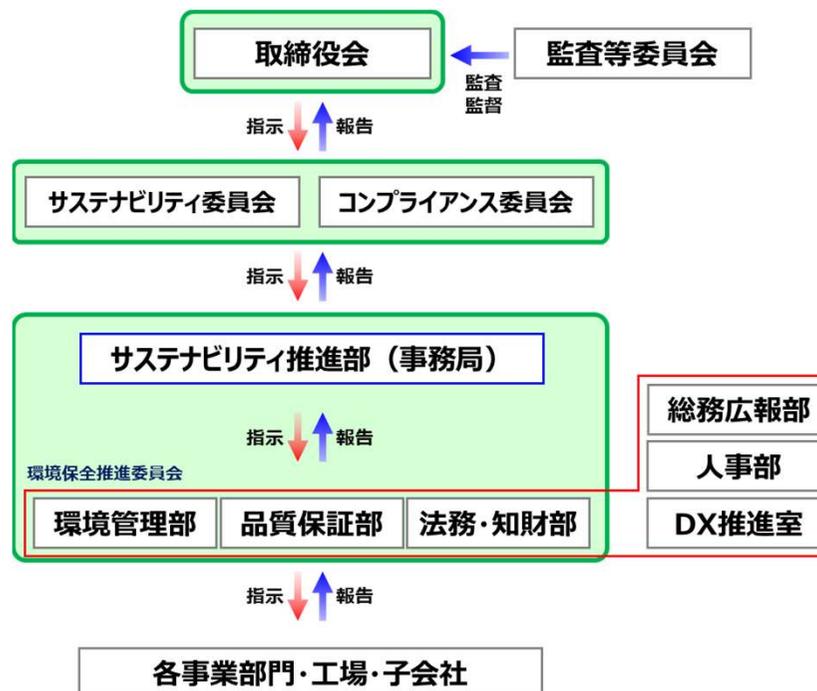
サステナビリティ基本方針

「社会から信頼される企業」であり続けるために、事業を通じて、社会との共生を念頭に企業の成長を目指す

サステナビリティ基本原則

1. 事業とESGの両立
2. 地球環境の保全
3. 法令順守・人権尊重と労働環境の配慮
4. 情報開示と対話

サステナビリティ推進体制



2021年4月
サステナビリティ
推進部設立

ステーク
ホルダー

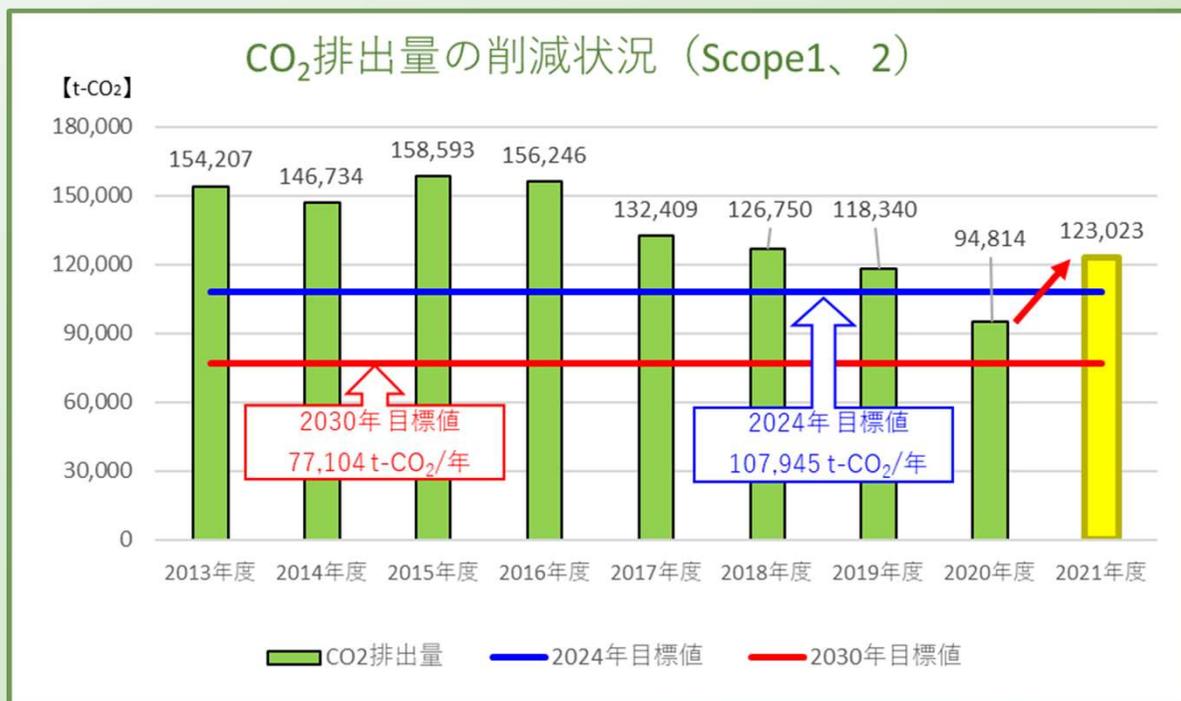
Environment : 環境

2024年目標

CO₂排出量:30%以上削減
 市場回収廃プラリサイクル製品売上:10億円以上
 生活サポート群環境貢献製品売上高比率:50%以上



脱炭素経営(気候変動対策)の推進



■太陽光発電(PPA方式)の導入

- 本社:2023年1月稼働予定
発電見込量:1,139MWh/年
- OKSオークラ(滋賀):2023年末稼働予定
発電見込量:476MWh/年
- 仲南工場(香川)、九州オークラ(熊本)
順次導入予定。



導入予想図(本社)

四国電力排出係数が44%UP

2019年度:0.000382 t-CO₂/kWh
 2020年度:0.000550 t-CO₂/kWh

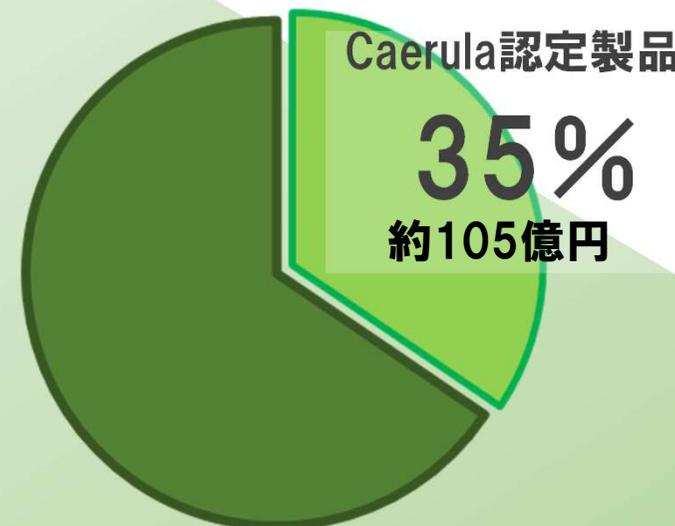
Environment : 環境

2024年目標

CO₂排出量:30%以上削減
 市場回収廃プラリサイクル製品売上:10億円以上
 生活サポート群環境貢献製品売上高比率:50%以上



2022年上期売上高実績



環境貢献製品の創出と拡大

■環境貢献製品「Caerula(カエルラ)」の制定

緑色：自然

白色：空

水色：海



矢印：循環
 赤色、青色
 大倉工業Gコーポレートカラー



部門	製品	前年同期比
合成	農業用マルチ「省之助」	104%
	農業用マルチ「祐作」	151%
	エコマーク等認定製品	135%
建材	パーティクルボード	121%
	環境型枠「木守」	665%
	プレカット材	147%
	省施工パネル	183%

Environment : 環境

2024年目標

CO₂排出量:30%以上削減
 市場回収廃プラリサイクル製品売上:10億円以上
 生活サポート群環境貢献製品売上高比率:50%以上



資源循環対策の更なる推進



- 資源循環農業用フィルム開発
「エコカルマルチ®」を開発、販売開始、2022年300tの生産見込み
- アパレル・EC通販リサイクル
今期中に実績化の見込み



エコカルマルチ®

夢がある。技術がある。未来ができる。

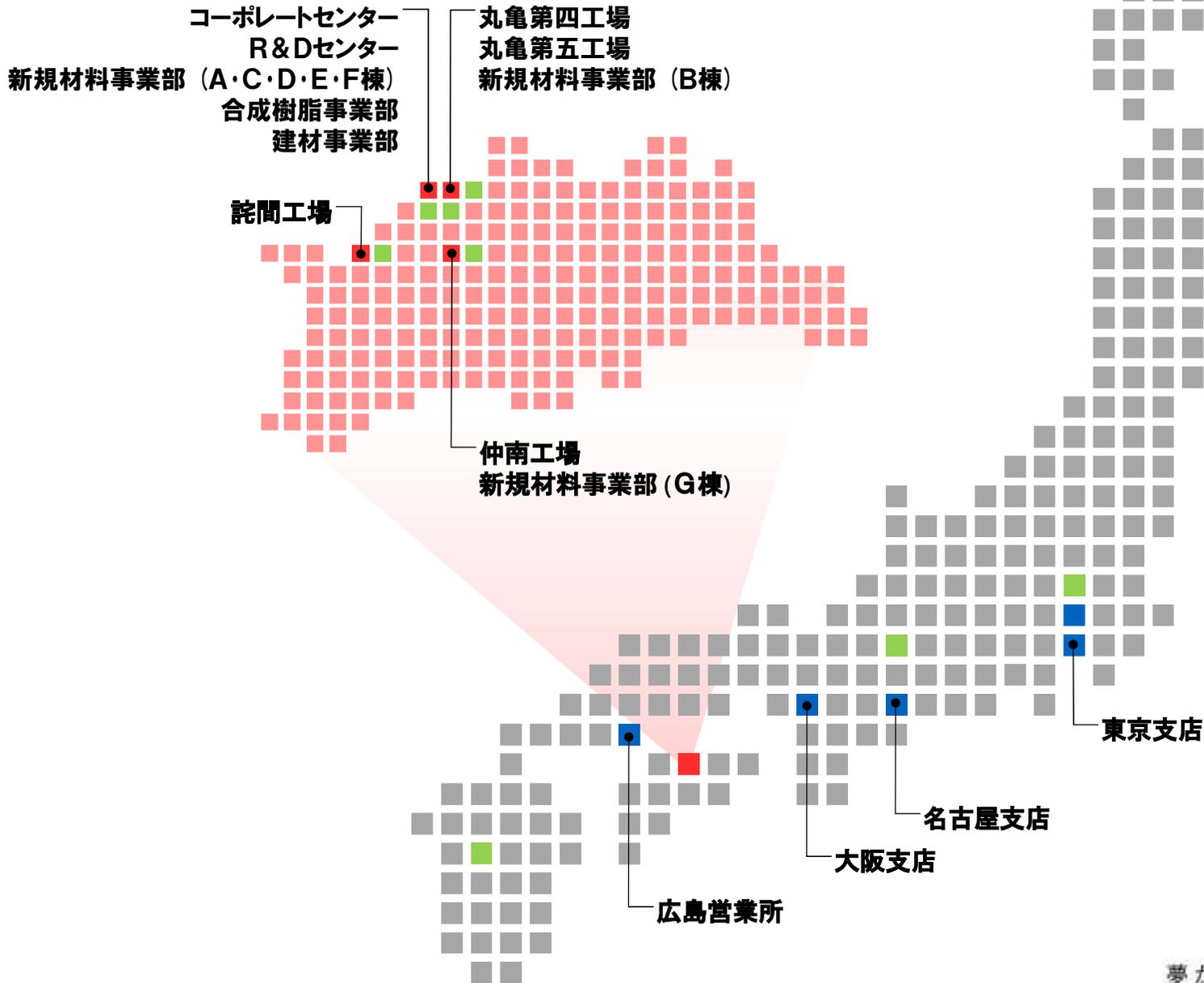
ご清聴ありがとうございました

参考資料

5



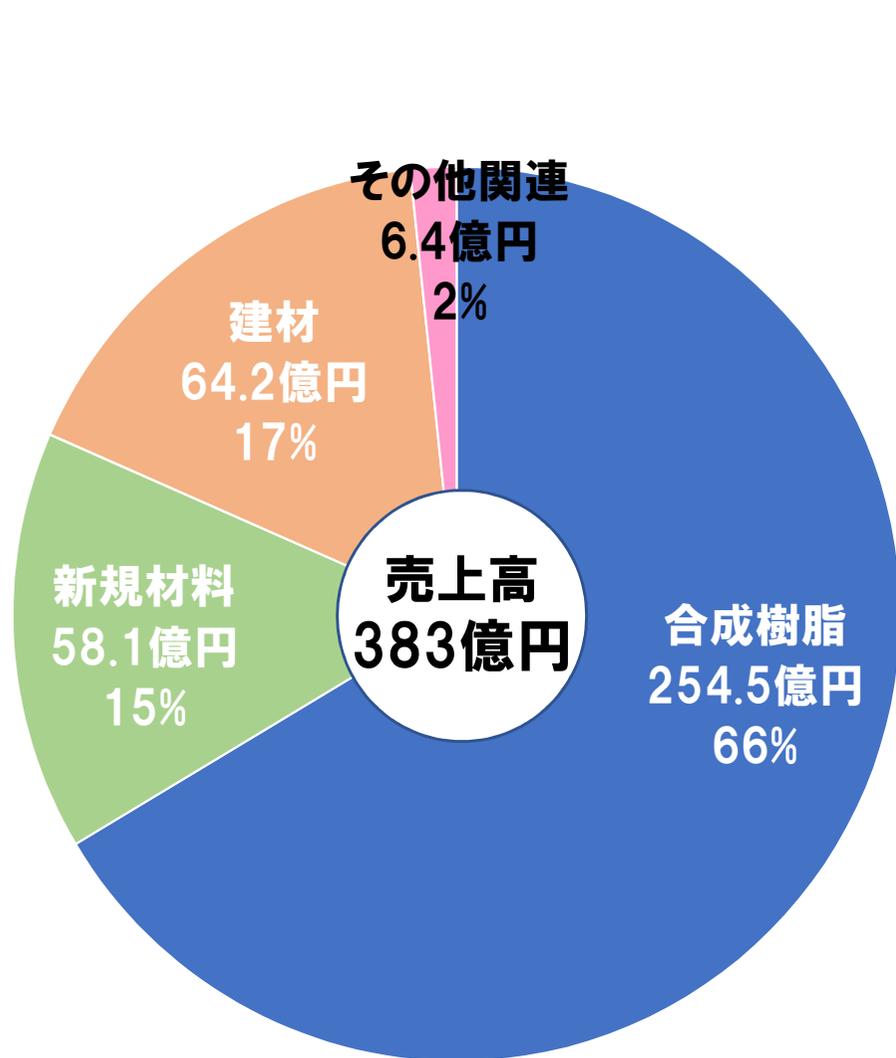
05-1 当社の事業所とグループ会社



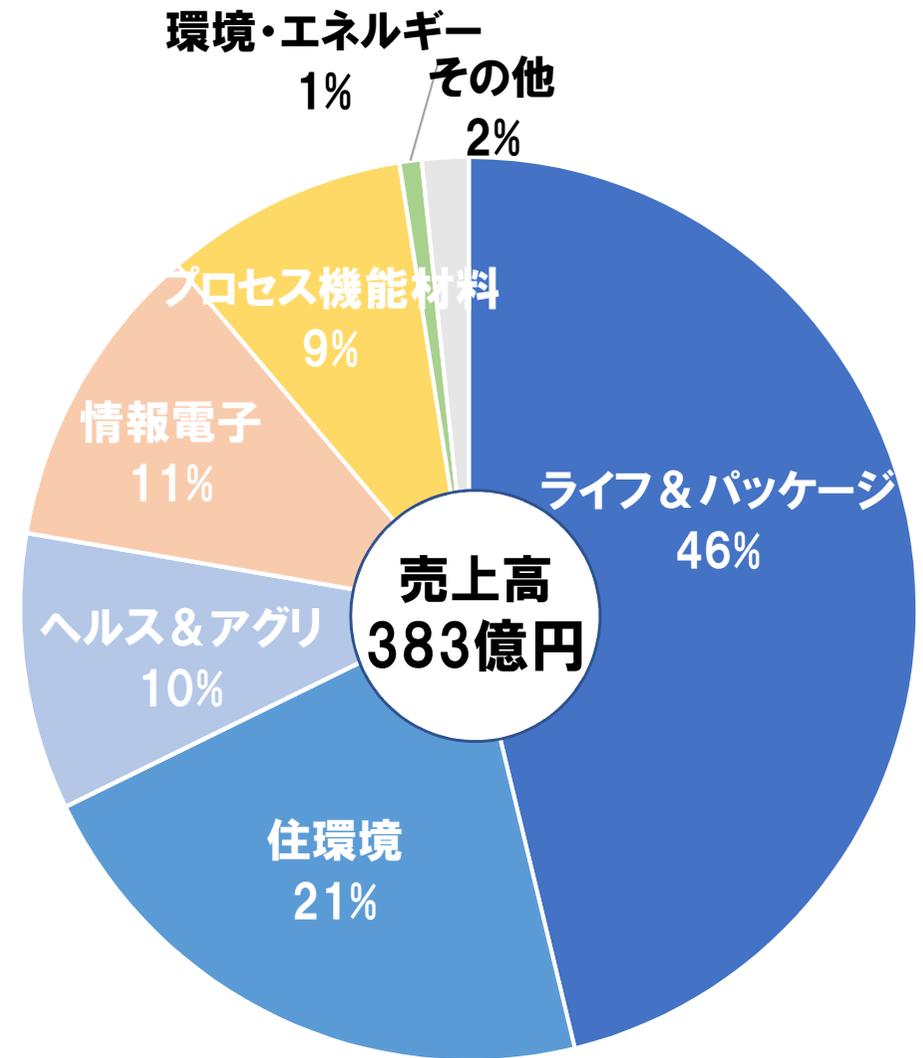
- グループ会社**
- (株)KSオークラ(滋賀県)
 - (株)九州オークラ(熊本県)
 - (株)埼玉オークラ(埼玉県)
 - (株)オークラプロダクツ
 - オークラホテル(株)
 - (株)オークラプレカットシステム
 - オークラ情報システム(株)
 - (株)オークラハウス
 - (株)ユニオン・グラビア
 - (株)オークラバック香川
 - (株)カントウ(埼玉県)
 - 無錫大倉包装材料有限公司(中国)
 - 尤妮佳包装材料有限公司(天津)有限公司(中国)
 - 大倉産業(株)
 - オー・エル・エス(有)
 - 大友化成(株)
 - 大宝(株)
 - 中讃ケーブルビジョン(株)
- ※(香川県)所在地省略

【2022年1月末現在】

05-1 セグメント別、領域別売上高比率



セグメント別売上高比率
(2022年上期)



領域別売上高比率
(2022年上期)

合成樹脂事業

ライフ＆パッケージBU

シュリンクフィルム

中間物流用の重量物包装や集積包装、食品を直接包装するものなど、オリジナルのデザインや形状を生かしたまま、商品をより美しく安全に包み込む。用途に応じた独自の機能を付与すると共に、印刷などの二次加工や包装システムなどを提案。

軟包材

ナイロン・ポリエステル・ポリエチレンなどのさまざまなフィルムを貼り合わせることにより、それぞれの特性を活かした機能的な複合フィルムのこと。冷凍食品の包装やIC基盤の保護用フィルム、詰め替え用のスパウト付きラミネート袋など、身近なところから最先端の電子材料にまで幅広く提供。

リキッドパック

液体包装容器の総称であり、段ボール箱内で使用されるバッグインボックスとドラム缶内で使用されるバッグインドラムに大別される。醤油などの食料品や化学薬品などの液体輸送の合理化に寄与。

【用途例】

乳酸菌飲料集積用、カップ麺、酒パック等の包装フィルム、食品トレイ包装用バリアフィルム



【用途例】

食品、洗剤、柔軟剤、シャンプー、ペットフード、お菓子等



【用途例】

ミネラルウォーター、油脂加工製品、調味液(醤油、ソース等)、液体肥料、液体洗剤、接着剤



合成樹脂事業

プロセスマテリアルBU

電子・エネルギー・住宅・メディカルなど様々な分野の主材や基材を提供。液晶パネルに使用される位相差フィルムの保護用フィルムなど、独自の樹脂ブレンドノウハウ・高い製膜技術・徹底した品質管理で最適なソリューションを提供。

【用途例】

光学、電子、電気製品、自動車、ユニットバス壁面、ドア・クローゼット・床などの建装材など



ベーシックマテリアルBU

規格袋・ごみ袋・包装/梱包荷材など、各種既製品はもとより、食品・衛生材料・家庭紙・日用雑貨・産業資材・医薬・洗剤・化粧品・印刷出版物など幅広い分野で製品の包装に使われているポリエチレンフィルムを提供。

【用途例】

規格袋、日用品、食品用パッケージフィルム、衛生材料用フィルム



アグリマテリアルBU

農業用の機能性フィルムであり、全国の農家から親しまれている製品。農作業の省力化と作物の収穫増のために、保温・地温上昇抑制・害虫忌避・抗菌・生分解といったさまざまな機能を持つ製品をラインアップ。

【用途例】

農業用フィルム、肥料の保存



新規材料事業

機能材料BU

TPEチーム(ウレタンフィルム)

機械的・化学的・電氣的等著しい機能を持つウレタンやフッ素系等の単層、多層フィルムをメディカル分野や自動車部品メーカー等に提供。

【用途例】

創傷用被覆保護ドレッシング
プリント接着用シート
印刷転写用シート
ヘッドレスト
ペイントプロテクションフィルム



BLTチーム(シームレスベルト・樹脂被覆ローラ)

プリンター等の画像情報機器に必要な電子機能を持つベルトやチューブをプリンター・複写機メーカーに提供。

【製品種類】

LBP用中間転写ベルト
クリーニングローラ
転写ローラ



ADHチーム(アクリル接着剤)

3タイプの硬化機構の無溶剤型アクリル接着剤を車輛・電気・鋼板・鋳型模型からゴルフクラブまで幅広い市場に提供。

【用途例】

モーターマグネット(電気自動車部品)
塗装鋼板
ゴルフクラブ
鋳型模型

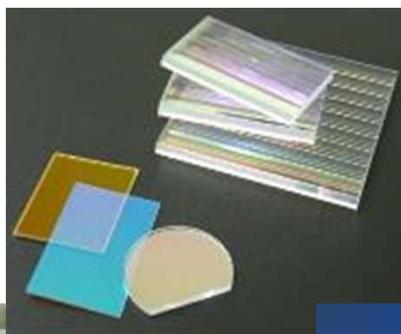


新規材料事業

電子材料BU(加工)、光学材料BU(製膜延伸)

MNTチーム、KEチーム、PLMチーム、CTチーム、MCSTRチーム

大型から中小型サイズの液晶ディスプレイを始め、タッチパネルや液晶プロジェクター等、電子表示体のキーマテリアルとなる各種光学機能性フィルムをFPDメーカー等に提供。



建材事業

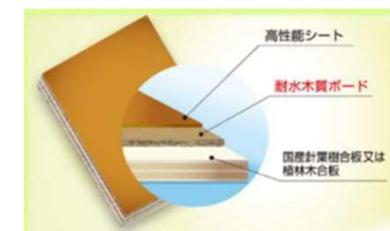
木質ボード事業：パーティクルボード(素板)

木質廃材を細かくしたチップに接着剤などを混ぜた原料を高温でプレスし固めたパーティクルボード。木質廃材を焼却せず製品としてリサイクルしており、二酸化炭素の排出を抑制し、地球温暖化の防止に寄与。



土木・建設資材事業：環境配慮型製品(木守)

国産針葉樹合板又は植林木合板に、平滑性に優れた耐水木質ボードを練り合わせ、表面に高性能シートをラミネートしたコンクリート型枠用合板。ラワン型枠用合板と比較しても強度、耐久性など同等の品質、性能をもっている。



住宅部材事業：省施工構造断熱パネル

構造用耐力面材と断熱材などが全てセットになっている。パネル施工と同時に断熱工事が完了するため、日数の短縮、職人不足や大工の労力軽減に繋がる。



建築・土地造成事業：株式会社オークラハウス

香川県丸亀市に本社があり、県内の新築、リフォームを手掛ける。エネルギー収支ゼロを目指したゼロ・エネルギー住宅や国土交通省が定めた耐震性能最高等級「耐震等級3」相当で建てるなど、快適に安心して長く住んでもらう住宅を提供。



木材加工事業：株式会社オークラプレカットシステム

香川県丸亀市に本社があり、木造建屋宅用構造材加工（プレカット加工）および木造建屋用資材（建築金物・基礎素材等）の仕入販売を行っている。よりよい家を作るために、数々の建築データを基に、安全に現場での作業を迅速に行えるプレカットされた木材を、日々つくり続けている。



その他関連事業

ホテル事業：オークラホテル株式会社

香川県丸亀市に本社があり、オークラホテル丸亀を営業。
オークラホテル丸亀は瀬戸内海を一望する最高のロケーションで
ビジネスや観光の拠点に便利な立地。



情報処理事業：オークラ情報システム株式会社



香川県丸亀市に本社があり、ソフトウェア開発やコンピュータシステムの運用、保守パッケージソフトの製造・販売、コンピュータ機器販売を手掛けている。ニーズを拾い上げ、形にするまでトータルでサポート。

材料設計開発

ポリマーブレンドアロイ
有機無機ハイブリッド
重合、多層化

加工技術

製膜、延伸、塗工、印刷、
貼合、加圧、抽出、+ α



用途・形態・使用条件にマッチした材料と
製造プロセスでお客様のご要求に対応

さまざまな分野・業界への 製品対応力

様々な業界のお客様とのお取引により
多様化するニーズにマッチした製品を
高い技術力を生かし供給し続けています。



夢がある。技術がある。未来ができる。

創業の意義 【創業者 松田 正二】

高松、倉敷飛行機勤務時に終戦を迎え、80数名の従業員の生活を守ることと、戦後社会の復興と人々の役立つ為に事業を起こす

世の為 = 社会に役立つ

人の為 = 従業員を守り、人々に役立つ

復興に不可欠な住宅とその材料販売で創業



高松製材所の風景



木材市売の四国住宅の頃

1945	岡内製材所として製材・小型の復興住宅を販売
1947	四国住宅株式会社を設立 ⇒ 創立記念日
1949	高松(東浜町)にて木材市売りを開始
1951	四国実業株式会社に商号変更 倉敷ビニロンを発売
1952	丸亀(城西町)にて木材市売りを開始
1955	ポリエチレン加工に着目し製造装置を購入

国内に原料メーカーが無い中で、ポリエチレンフィルムの将来性に着目

当該事業の開始を機に社名(商号)変更

長年勤務しお世話になった倉敷紡績と大原社長から一字ずつ戴く

倉敷紡績 社長

大原総一郎氏

倉敷紡績株式会社



高松本社ビル

1955	【全体】大倉工業株式会社に商号変更
1956	【合成】ポリエチレンフィルム本格生産(港町)
1959	【合成】東京工場操業開始 その後、大阪工場、福岡工場を立て続けに建設
1962	【全体】大阪証券取引所第2部市場に株式上場 【合成】本社工場操業開始 【建材】ラワン合板事業に進出
1964	【合成】岡山工場、熊本工場、静岡工場を建設 【建材】プリント合板製造開始
1967	【合成】埼玉工場操業開始



本社工場構内

1968	【建材】 詫間工場操業開始、【他】 冷凍倉庫事業開始
1970	【全体】 東京・大阪両証券取引所第1部市場に株式上場
1971	【建材】 パーティクルボード製造開始
1972	【全体】 本社を香川県丸亀市に移転
1973	【他】 四国初のマンション(大倉マンション)建設 「オークラホテル高松」をオープン
1977	【合成】 丸亀第四工場操業開始
1987	新規材料事業部を新設
1988 1992	【他】 「オークラホテル丸亀」がオープン オークラ情報システム(株)設立 【合成】 製版会社(株)ユニオングラビア設立 丸亀第五工場操業開始
1995	中国に「無錫大倉包装材料有限公司」を設立 【合成】 仲南工場操業開始
1996	【建材】 詫間工場で爆発事故



オークラホテル丸亀



新規材料事業部(A棟)



液晶ディスプレイ用光学フィルムの事業拡大

2000	【新規】 光学フィルム工場C棟操業開始 偏光板事業「オー・エル・エス(有)」を設立
2001	【合成】 福岡・熊本の2工場を統合し九州工場操業開始
2004	【新規】 光学フィルム工場D棟操業開始 【合成】 「(株)九州オークラ」を設立
2006	【合成】 「(株)OKプロダクツ岡山」、 「(株)オークラプロダクツ香川」を設立
2007	R&Dセンターを新設 【合成】 「(株)関西オークラ」、 「(株)関東オークラ」を設立
2009	【他】 「(株)オークラプレカットシステム」を設立



新規材料事業部(C棟)



新規材料事業部(D棟)



経営品質を高め、技術優位な企業へ 経営基盤を強化し、要素技術を進化させる

2012	【合成】「尤妮佳包装材料（天津）有限公司」を設立 【建材】パーティクルボードJIS認証取り消し
2013	第四次中期経営計画スタート JIS認定再取得
2014	【新規】仲南G棟操業開始 オー・エル・エス新ライン増設 【合成】関西オークラ新工場(第3工場)操業開始
2016	第五次中期経営計画スタート 監査等委員会設置会社に移行
2017	会社創立70周年
2018	代表取締役交代
2019	【合成】「(株)埼玉オークラ」を設立
2022	【合成】「(株)KSオークラ」を設立



新規材料事業部(仲南G棟)
10.5世代パネル対応の
最新工場



関西オークラ(第3工場)



本資料に掲載されている業績予想・事業計画は、当社が現時点で入手可能な情報及び種々の前提に基づき作成したものであり、実際の業績等の結果は、今後生ずる様々な要因によって、予想・計画とは異なる場合がございます。

本資料は、情報提供のみを目的としたものであり、当社が発行する有価証券の売買を勧誘することを目的としたものではありません。

OKURA

**2022年12月期
第2四半期決算説明資料**



大倉工業株式会社

2022年8月25日

END